

平成 27 年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

【全般】

学力検査は、中学校学習指導要領で示されている各教科の目標、内容に即して行われている中学校での学習で身につけた基礎学力を測るものである。問題作成にあたっては基礎的・基本的な知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力等を問うものとなるよう配慮した。

平均点と得点分布状況は別紙のとおりである。5教科の平均点は267.6点で、昨年度に比べて10.6点高い。各教科の昨年と比べた平均点の変化は、国語(−0.1点)、社会(+4.3点)、数学(+3.7点)、理科(−4.0点)、英語(+6.7点)である。

【国語】

基礎的・基本的な知識や文章量の多い問題に根気強く取り組む力は概ね身につけており、中学校での学習の成果が見られた。一方で、全体の構成をとらえる力や、出題の意図や条件を踏まえて適切に書く力には課題が残った。記述式の解答では、漢字や語句を正しく用いること、内容を整理してまとめることに個人差がみられた。目的に応じて思考・判断し、適切に表現する力の育成が必要である。

【社会】

地理・歴史・公民分野とも、基礎的な知識は概ね身につけている。しかし、知識だけではなく、原因・結果をふまえて時代順を考える問題では正答率が低かった。また、複数の資料を活用して社会的事象の意味や意義などを考察する問題の正答率も低かった。基礎的・基本的な知識の確実な定着と、それを活用して多面的・多角的に思考・判断・表現する力の育成が必要である。

【数学】

数と式の計算や確率の計算などの基本的な技能に関しては概ね定着しており、中学校における学習の成果がうかがえる。また、規則性を見つけたり、関数の式を使って座標を求めたりする力も概ね身につけている。一方、用語の意味の理解や、平行という用語を用いてグラフ上の点の定め方を説明したり、三角形が合同であることを証明したりするなど、論理的に説明する力については課題が残った。

【理科】

全般的に基礎的・基本的な知識・技能を問う問題の正答率は高かった。しかし、思考力・判断力・表現力を必要とする計算問題や記述問題では無解答が多く、正答率が低かった。自然の事物・現象について興味・関心を持ち、主体的に探究する態度を育て、観察・実験の結果を科学的に考察して、グラフや文章などで表現する力、さらに、他教科で身につけた知識・技能をも活用する力の育成が必要である。

【英語】

聞き取り問題の正答率は高かった。また、英文と資料から情報を読み取る問題や未知の語句の意味を類推する問題も高い正答率であった。一方で、与えられた場面やテーマにふさわしい表現を用いたり、自分の考えを書いたりする問題では、無答率が高かった。また、筆者の主張や話の要点を正確に読み取る力が不足していた。まとまりのある英文を読んだり、英文で表現したりする力の育成が必要である。